

桜が丘団地 新しいスタイルの里山再生保護活動

赤磐市南部にある桜が丘地区は、全国屈指の民間開発巨大団地です。開発前の山林は、「里山」として周辺集落で活用されていました。その一部を、現赤磐市所有地に編入し、現在は、生活環境保全機能及び保健休養機能の高い森林、いわゆる「保健保安林」として残されています。

13 年前までは手入れされず、近づくことすらできなかったこの土地を「あかいわ美土里の和」は、「小さなスペースでもいい、地上に陽光がとどき、草花が咲き、自然の恵みを得る、そして何よりも子ども達が駆け回って自然に親しめる、そんな場所が欲しい。」というささやかな願いから、平成 23 年 5 月より、「農業のバックランド」ではなく「市民生活のバックランド」としての「里山」再生活動を開始しました。下草刈りなどの整備活動は勿論、自然観察会や山菜料理体験イベント（一般公募活動年間平均 10 回）を、子ども達参加で実施しています。メインテーマは、

～生かそう 楽しもう 里山の森～

～持ち出さない 持ち込まない ～ です。

活動成果が認められ平成 29 年に岡山県備前県民局より「平成 29 年度地域づくり推進賞」を、令和 3 年には国土緑化推進機構から「令和 3 年度ふれあい森林づくり会長賞」を受賞しています。

主な活動主体	あかいわ美土里の和
保護動植物の 位置付け	岡山県版レッドデータブック 2020 絶滅危惧Ⅱ類：準絶滅危惧種

活動状況（写真提供：あかいわ美土里の和）



一般公募里山整備 自然観察会



ツリークライミング



山菜料理

